

特集1

大学と地域社会

はじめに……………	古屋野素材	2
総力戦体制下における高等教育機関の設置と地域 —公立医学専門学校に注目して— ……	吉川 卓治	5
アメリカ合衆国大学史におけるコミュニティ・ジュニア・ カレッジ—「地域社会の短期高等教育機関」としての存在意義 を巡って— ……	坂本 辰朗	26
1920～1960年代アメリカの州立大学と地域 —ウイスコンシン大学同窓会研究財団の歴史的展開— ……	五島 敦子	48

論文

戦時下九州帝国大学の国際文化事業 —九州国際文化協会（1939-1943）に着目して— ……	山本 尚史	67
エズラ・スタイルズの「大学計画」とイェール・ カレッジの教育課程の変容, 1777-1795 —カレッジ教育課程における法学導入の意味— ……	原 圭寛	97

特集2

中山茂氏 追悼—科学史研究と大学史研究—

はじめに……………	古屋野素材	116
中山茂先生と日本の大学史研究……………	塚原 修一	118
現代日本科学技術社会史と中山茂……………	吉岡 斉	132
中山茂の被爆体験と原爆文学……………	成定 薫	148

書評

別府昭郎編『「大学」再考—概念の受容と展開』／ 別府昭原著『近代大学の揺籃—一八世紀ドイツ大学史研究』…	木戸 裕	159
---------------------------------------------------------	------	-----

- 『大学史研究』の投稿・編集の基本方針… 174
『大学史研究』投稿・執筆要領… 175
大学史研究会への入会のお勧め… 177
『大学史研究』バックナンバー販売のご案内… 178

編集後記……………		179
-----------	--	-----

特集 1

大学と地域社会

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------|-------|
| はじめに | 古屋野素材 |
| 総力戦体制下における高等教育機関の設置と地域
——公立医学専門学校に注目して—— | 吉川 卓治 |
| アメリカ合衆国大学史におけるコミュニティ・
ジュニア・カレッジ
——「地域社会の短期高等教育機関」としての存在意義を巡って—— | 坂本 辰朗 |
| 1920～60年代アメリカの州立大学と地域
——ウィスコンシン大学同窓会研究財団の歴史的展開—— | 五島 敦子 |

編 集 後 記

◆編集委員会として、まず何よりも、前号・25号の刊行（2013年12月）から、今号の刊行までに、4年もの間隔が生じてしまったことをお詫びしなければならない。

この作業の遅延に関しては、ひとえに編集委員会がその責めを負うべきであることは言うまでもないが、我々の作業が停滞した幾つかの要因についてお伝えしたい。

『大学史研究』の基本的な編集方針は、毎年度ほぼ晩秋に開催される「大学史研究セミナー」の、シンポジウムの登壇者に、当日の報告内容に基づく論稿の執筆を依頼し、それらを集成した〈特集〉を軸に、他に、広く会員からの投稿を募って寄せられた論稿を加える、という形を踏襲している。

ただ、シンポジウムの登壇者の多くが、教育・研究の第一線で多忙に活躍中であり、すべての論稿が、必ずしも、編集委員会として希望する刊行のタイミングに合う形で提出されるわけではなく、とはいえ、刊行スケジュールを優先して、集まった論稿だけで〈特集〉を組むのは、折角の「セミナー」のシンポジウムの熱気を伝えることができず、悩むところである。

また、本誌が23号（2008年10月刊行）から、東信堂のご協力を得て、市販書籍の形をとったことも、編集委員会として苦勞するところである。つまり、収録論稿の数を問わず（つまり毎号のボリュームの差異をそれほど問題とせず）集まった論稿だけで定期刊行することも可能な大学紀要等とは異なり、市販書籍として世に問う本誌は、毎号、できるかぎり充実かつ安定した内容構成・ボリュームを確保することを目標とせざるを得ない。

このこととも関連して、寄せられた論稿の査読に関しても、苦心がある。つまり、大学の紀要等であれば、院生や若手研究者からの澁刺とした投稿について、ある程度粗削りであっても、糧となる批判を広く受けるチャンスという意味もこめて掲載するケースは少なくないであろうが、市販書籍であるという本誌の性格から、我々としては、そのような若々しい論稿に対して、大学史のみならず教育の歴史一般についても必ずしも専門的知識を有さない

読者も想定して、基本的な学術用語や史実に関して、簡潔ながら丁寧な（という、なかなか難しい）解説の追加を要請することも数多くあり、最終的な掲載可否の決定の前に、投稿者との間で時間をかけて繰り返し意見交換を重ねてきた。

そうこうするうちに遭遇した、2014年5月に中山茂氏のご逝去に対応しての、2015年度の「大学史研究セミナー」における、氏の追悼をテーマとするシンポジウムに基づく〈特集〉も今号に加えることとなり、編集作業はさらに時間を要した。

しかしながら、以上の諸ファクターについては、編集委員会として、作業の能率アップについての工夫・努力の余地が多々あろう、というご批判を受けることは当然であり、改めて心よりお詫び申し上げる次第である。いずれにしても、安定したスケジュールでの研究誌の刊行を軌道にのせるためにも、今後の編集委員会体制に関して、研究会として詰めた議論が望まれる。

◆会員諸氏には、年に数回発行の『大学史研究通信』において、会員の諸動向をお伝えしているが、会員以外の読者も含む本誌として、前号（25号）以降の、大学史研究会発足時からのメンバーの訃報を、哀惜の念を込めてお伝えしたい。

まずは、2014年5月に他界された中山茂氏に関しては、今号の特集を参照されたい。

田中征男氏（2013年9月18日、享年70歳）野間教育研究所・和光大学

主著『大学拡張期の歴史的研究』『戦後改革と大学基準協会の形成』他
児玉善仁氏（2015年5月17日、享年65歳）帝京大学・甲南大学

主著『イタリアの中世大学～その成立と変容～』『ヴェネツィアの放浪教師～中世都市と学校の誕生』他（『大学史研究』前・編集委員長）

皆川卓三氏（2017年6月17日、享年94歳）山形大学・神奈川県立栄養短期大学（学長）

主著『ラテン・アメリカ教育史1、2』他

長年の会員諸氏には、これら4人の先生方の優れたお人柄と、それぞれの独創性かつ学術性の極めて高い研究活動についての、鮮烈な記憶が新しいであろう。研究会として、まだまだご活躍いただきたかった思いが強く、そのご逝去は残念極まりない。なかでも皆川氏は、中山氏と並んで横尾壮英氏、寺崎昌男氏とともに、大学史研究会の起源に関わられ、しかも日本では数少ないラテン・アメリカ教育史の専門家として先駆者的存在であった。大学院生等の若い頃から研究会に加わった世代にとっては、始祖のように仰ぎ見ていた上記の所謂“4人組”の先生方の三人までが鬼籍に入られたことの衝撃も大きい。

大学史研究に多大な貢献をされた、田中・中山・児玉・皆川の四氏のご冥福を、改めて心よりお祈りしたい。

『大学史研究』編集委員会 編集委員長 古屋野素材（元・明治大学）

副委員長 木戸 裕（元・国会図書館）

委員 赤羽 良一（元・長崎大学）

委員 阪田 蓉子（元・明治大学）

委員 吉村日出東（埼玉学園大学）

大学史研究 第26号

ISSN 0918-5445

2017（平成29年）12月31日発行

編集者 『大学史研究』編集委員会

発行者 大学史研究会

発行所 株式会社東信堂

『大学史研究』編集委員会

〒192-0393 八王子市東中野742-1

中央大学法学部研究室受付

TEL&FAX：042-674-3151

E-mail: daishi@tamacc.chuo-u.ac.jp

株式会社東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6

TEL: 03-3818-5521

FAX: 03-3818-5514

E-mail: tk203444@fsinet.or.jp

<http://www.toshindo-pub.com/>

ISBN978-4-7989-1481-7 C3037

大学の自己変革とオートノミー

―点検から創造へ―

歴史・システム・カリキュラム

大学教育の可能性―教養教育・評価・実践

大学は歴史の思想で変わる―F・D・P・D・私学

大学改革 その先を読む―理念とF・D・P・D・私学

大学自らの総合力―理念とF・D・P・D・私学

大学自らの総合力Ⅱ―大学再生への構想力

寺崎昌男 二五〇〇円

寺崎昌男 二五〇〇円

寺崎昌男 二五〇〇円

寺崎昌男 二八〇〇円

寺崎昌男 一三〇〇円

寺崎昌男 二〇〇〇円

寺崎昌男 二四〇〇円

大学評価の体系化

高等教育の質とその評価―日本と世界

アウトカムに基づく大学教育の質保証―チューニングとアセスメントにみる世界の動向

高等教育質保証の国際比較

学士課程教育の質保証へむけて

―学生調査と初年次教育からみてきたもの

大学教育を科学する―学生の教育評価の国際比較

一年次(導入)教育の日米比較

新自由主義大学改革―国際機関と各国の動向

新興国家の世界水準大学戦略

―国際機関と各国の動向

世界水準をめざすアジア・中南米と日本

東京帝国大学の真実

―日本近代大学形成の検証と洞察

原理・原則を踏まえた大学改革を

―場当たり策からの脱却こそグローバル化の条件

学生支援GPの実践と新しい学びのかたち

アカデミック・アドバイジング その専門性と実践

―日本の大学へのアメリカの示唆

大生基準協会編

山田礼子編著

深堀聰子

杉米羽 本澤田和彰 弘純編

山田礼子

山田礼子編著

山田礼子

細井克彦編集代表

米澤彰純監訳

館昭

館昭

大野島勇人

清野雄多司

清水栄子

清水栄子

清水栄子

清水栄子

清水栄子

清水栄子

三三〇〇円

二八〇〇円

三六〇〇円

三六〇〇円

三三〇〇円

三六〇〇円

二八〇〇円

二八〇〇円

三八〇〇円

四八〇〇円

四六〇〇円

二〇〇〇円

二〇〇〇円

二八〇〇円

二四〇〇円

二四〇〇円

二〇〇〇円

二〇〇〇円

二〇〇〇円

転換期を読み解く―潮木守一時評・書評集

大学再生への具体像―大学とは何か【第二版】

フンボルト理念の終焉?―現代大学の新たな元

「大学の死」、そして復活

大学教育の思想―学士課程教育のデザイン

大学教育の在り方を問う

大学改革の系譜…近代大学から現代大学へ

大学理念と大学改革―ドイツと日本

北大 教養教育のすべて

―エクセレンスの共有を目指して

国立大学法人の形成

国立大学 法人化の行方―自立と格差のはざま

大学は社会の希望か―大学改革の実態からその先を読む

転換期日本の大学改革―アメリカと日本

大学の管理運営改革―日本の行方と諸外国の動向

大学経営とマネジメント

大学戦略経営論

―中長期計画の実質化によるマネジメント改革

私立大学マネジメント

―一九八〇年代後半以降の動態

私立大学の経営と拡大・再編

大学の発想転換―体系的イノベーション論―五年

30年後を展望する中規模大学

―マネジメント・学習支援・連携

大学のキャリアキュラムマネジメント

戦後日本産業界の大学教育要求

―経済団体の教育言説と現代の教養論

アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策

カナダの女性政策と大学

大学教育とジェンダー

―ジェンダーはアメリカの大学をどう変革したか

スタンフォード 21世紀を創る大学

潮木守一

潮木守一

潮木守一

絹川正吉

絹川正吉

山田宣夫

別府昭郎

金子勉

小笠原正明
安藤厚 編著

細川敏幸

大崎 仁

天野郁夫

江原武一

二六〇〇円

二四〇〇円

二五〇〇円

二八〇〇円

二八〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二四〇〇円

二四〇〇円

二六〇〇円

二六〇〇円

二〇〇〇円

二〇〇〇円

二六〇〇円

二六〇〇円

二五〇〇円

多様性と向きあうカナダの学校

―移民社会が目指す教育

カナダの女性政策と大学

多様社会カナダの「国語教育」(カナダの教育3)

[21世紀にはばたくカナダの教育(カナダの教育2)]

ケベック州の教育(カナダの教育1)

トランスナショナル高等教育の国際比較―留学概念の転換

チユートリアルへの伝播と変容

―イギリスからオーストラリアの大学へ

「新版」オーストラリア・ニュージーランドの教育

―グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて

戦後オーストラリアの高等教育改革研究

オーストラリアのグローバル教育の理論と実践

―開発教育研究の継承と新たな展開

オーストラリアの教員養成とグローバルリズム

―多様性と公平性の保証に向けて

オーストラリアの言語教育政策

―多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存

英国の教育

イギリスの大学―対位線の転移による質的転換

統一ドイツ教育の多様性と質保証―日本への示唆

ドイツ統一・EU統合とグローバルリズム

―教育の視点からみたその軌跡と課題

教育における国家原理と市場原理

―チリ現代教育史に関する研究

中央アジアの教育とグローバルリズム

インドの無認可学校研究―公教育を支える「影」の制度

タイの人権教育政策の理論と実践

―人権と伝統的多様な文化との関係

バンラデシユ農村の初等教育制度受容

マレーシア青年期女性の進路形成

東アジアにおける留学生移動のパラダイム転換

―大学国際化と「英語プログラム」の日韓比較

児玉 奈々

犬塚 典子

関口 礼子 編著

浪田 克之 編著

小林 順子 他 編著

小林 順子

杉本 均 編著

竹腰 千絵

青木 麻衣子 編著

佐藤 博志 編著

杉本 和弘

木村 裕

本柳 とみ子

佐藤 博志

青木 麻衣子

日英教育学会 編

秦 由美子

坂野 慎二

木戸 裕

斉藤 泰雄

川嶺 井明子 編著

川野 辺敏子 編著

小原 優貴

馬場 智子

日下部 達哉

鴨川 明子

嶋内 佐絵

三九〇〇円

三八〇〇円

二八〇〇円

二〇〇〇円

三六〇〇円

二八〇〇円

放送大学に学んで

放送大学中国・四国ブロック学習センター編

— 未来を拓く学びの軌跡

ソーシャルキャピタルと生涯学習

矢野・フイールド
矢野裕俊監訳

二〇〇〇円

成人教育の社会学—パワー・アート・ライフコース

高橋満 編著

二五〇〇円

NPOの公共性と生涯学習のガバナンス

高橋満 編著

二八〇〇円

コミュニティワークの教育的実践

高橋満 編著

二〇〇〇円

学級規模と指導方法の社会学

山崎博敏 編著

二二〇〇円

実態と教育効果

高等専修学校における適応と進路

伊藤秀樹 編著

四六〇〇円

— 後期中等教育のセーフティネット

「夢追い」型進路形成の功罪

荒川 葉 編著

二八〇〇円

— 高校改革の社会学

進路形成に対する「在り方生き方指導」の功罪

望月由起 編著

三六〇〇円

— 高校進路指導の社会学

教育から職業へのトランジション

山内乾史 編著

二六〇〇円

— 若者の就労と進路職業選択の社会学

教育と不平等の社会学論—をこえて

小内 透 編著

三二〇〇円

マナーと作法の社会学

加野芳正 編著

二四〇〇円

マナーと作法の人間学

矢野智司 編著

二〇〇〇円

〈シリーズ 日本の教育を問いなおす〉

拡大する社会格差に挑む教育

西村和雄・大森不二雄
倉元直樹・木村拓也 編著

二四〇〇円

混迷する評価の時代—教育評価を根底から問う

西村和雄・大森不二雄
倉元直樹・木村拓也 編著

二四〇〇円

教育における評価とモラル

西戸瀬和雄 編著

二四〇〇円

〈大転換期と教育社会構造—地域社会変革の学習社会論的考察〉

西戸瀬和雄 編著

二四〇〇円

第1巻 教育社会史—日本とイタリアと

小林 甫 編著

七八〇〇円

第2巻 現代的教養Ⅰ—生活者生涯学習の

小林 甫 編著

六八〇〇円

現代的教養Ⅱ—技術者生涯学習の

小林 甫 編著

六八〇〇円

第3巻 学習力変革—地域自治と

小林 甫 編著

近 刊

第4巻 社会共生力—東アジアと

小林 甫 編著

近 刊

附属新潟中式「3つの重点を生かした確かな学びを促す授業
 教科独自の眼鏡を育むことが「主体的対話的で深い学びの鍵となる！」
 附属新潟中学校 編著

ICEMモデルで拓く「主体的な学び」

柘 磨 昭 孝

二〇〇〇円

社会に通用する持続可能なアクティブラーニング
 ICEモデルが大学と社会をつなぐ

土持ケイリー法一

二〇〇〇円

ポर्टフォリオが日本の大学を変える
 ティーチングラーニングアカデミックポर्टフォリオの活用

土持ケイリー法一

二五〇〇円

ラーニング・ポर्टフォリオ―学習改善の秘訣
 ティーチング・ポर्टフォリオ―授業改善の秘訣

土持ケイリー法一
 S・ヤング&R・ウィルソン著
 土持ケイリー法一 監訳

二五〇〇円
 一〇〇〇円

「主体的学び」につなげる評価と学習方法

主体的学び研究所編

一八〇〇円

主体的学び 創刊号

主体的学び研究所編

一八〇〇円

主体的学び 2号

主体的学び研究所編

一六〇〇円

主体的学び 3号

主体的学び研究所編

一六〇〇円

主体的学び 4号

主体的学び研究所編

二〇〇〇円

主体的学び 5号

主体的学び研究所編

一八〇〇円

主体的学び 別冊 高大接続改革

主体的学び研究所編

一八〇〇円

溝上慎一監修 アクティブラーニング・シリーズ(全7巻)

①アクティブラーニングの技法・授業デザイン

水野正一郎 編

一六〇〇円

②アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習

溝上慎一 編

一八〇〇円

③アクティブラーニングの評価

石井英真 編

一六〇〇円

④高等学校におけるアクティブラーニング…理論編(改訂版)

溝上慎一 編

一六〇〇円

⑤高等学校におけるアクティブラーニング…事例編

溝上慎一 編

二〇〇〇円

⑥アクティブラーニングをどう始めるか

成田秀夫

一六〇〇円

⑦失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング

亀倉正彦

一六〇〇円

アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換
 大学のアクティブラーニング

溝上慎一
 河合塾編著

二四〇〇円
 三二〇〇円

「学び」の質を保証するアクティブラーニング

河合塾編著

二〇〇〇円

「深い学び」につながるアクティブラーニング

河合塾編著

二八〇〇円

「深い学び」につなげるアクティブラーニング

河合塾編著

二八〇〇円

アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか
 河合塾編著

二八〇〇円

経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと

河合塾編著

二八〇〇円